

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	94-1 文化振興一般経費(だんじり・鬼行列運営助成金)	会計	01	一般会計
		款	02	総務費
		項	01	総務管理費
		目	07	文化振興費
基本 施策	35 文化・芸術により、豊かな感性と創造性を育む	細目	128	文化振興経費
		細々目	01	文化振興一般経費
		行革大綱の重点事項番号		
担当部課名	コード	40100	担当者氏名	久保 敦美
	名称	企画財政部企画課	連絡先	22 - 9621 (内線) 4115

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	上野文化美術保存会(だんじり9町及び鬼4町)	※対象件数
成果(どうする)	上野天神祭りだんじり・鬼行列の巡行を行うことができ、国の重要無形民俗文化財に指定されている行事を後世に伝承するための負担を軽減できる。	
根拠法令・要綱等	企画財政部関係補助金等交付要綱	
開始年度	平成 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H23 事業 内容	国の重要無形民俗文化財に指定されている上野天神祭りの運営等郷土文化の振興、伝承を図るため、上野美術保存会に対して運営助成を行った。 助成金は、分配金としてだんじり9町及び鬼4町に配分されそれぞれ各自治会で事業運営を行った。	
社会情勢の 変化等	平成20年度に助成金を930千円減額した。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体 (委託先)	[]
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H22	H23	H24	H25
上野文化美術保存会定時総会	目標	回	1	1	1	1
	実績		1	1		
だんじり、鬼行列の巡行	目標	回	1	1	1	1
	実績		1	1		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H22	H23	H24	H25
上野文化美術保存会(加盟町)数	現上野美術保存会の確保	町	目標	13	13	13	13
			実績	13	13		
だんじり、鬼行列の巡行参加町	巡行に参加した町の数	町	目標	13	13	13	13
			実績	13	13		

投入コスト	Aの財源内訳	H22 決算	H23 決算	H24 当初予算	H25 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
直接事業費計(A)	国庫支出金	19,751	8,370	8,370	8,370
	県支出金				
Aの財源内訳	地方債				
	その他	10,550			
	一般財源	9,201	8,370	8,370	8,370
事業投入人件費(B)		0.1人 720	0.1人 720	0.1人 720	0.1人 720
フルコスト(A)+(B)		20,471	9,090	9,090	9,090

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	【必1】法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業 【必2】個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業 【必3】特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業 【必4】市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業 【必5】市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業 【必6】市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業 【必7】民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業 【必8】受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業 【必9】市の個性、特色、魅力を継承・発展・創造し、あるいは国内外へ情報発信することを目的とした事業 【必10】事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業 【必11】国や県、民間が同様のサービスを提供している事業 【必12】事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業 【必12】【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】 財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業 【必13】【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】 国の無形民俗文化財に指定されており、上野天神祭りのだんじり・鬼行列巡行の伝統文化伝承が困難になる為	
有効性	【有1】事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 【有2】基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。 【有3】サービス水準や対象を見直す余地がある。	○ 国指定無形民俗文化財である上野天神で、だんじり・鬼行列の巡行を行い、後世に伊賀市で生まれた文化を継承することに寄与している。
達成度	【達1】当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】 【達2】予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効率性	【効1】他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 【効2】基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 【効3】受益者負担を求めることができる事業である。 【効4】全体コストにおける負担構成は適正である。 【効5】コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	○

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	23年度以降も、上野文化美術保存会構成自治会の取り組みによるだんじりの曳き手等の確保と、伊賀市としてもボランティアスタッフの人員確保に努める。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいない 【詳細】 上野文化美術保存会構成自治会それぞれの取り組みにより、曳き手等の人員確保が行われている。伊賀市としても各関係部署よりボランティアスタッフとして出役をした。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	藤山 善之
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 各指標実績から、事業の成果はあると考えられる。国の無形民俗文化財に指定されている上野天神祭りのだんじり・鬼行列の巡行による伝統文化の伝承と、だんじり・鬼の面等の管理のための事業として継続した事業展開を行う必要があり、現状維持としたい。
現時点における課題、その他	だんじりの曳き手等の人員が少子化等の影響から、今後も減少するおそれがあるが、補助金適用団体である為、継承に係る食料費、慰労会費等の見直しを図る。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	上野文化美術保存会構成自治会の取り組みによるだんじりの曳き手等の確保と、伊賀市としてもボランティアスタッフの人員確保に努める。また、事業計画、決算報告書の様式統一化により、補助金のあり方を協議する。

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	94-2 文化振興一般経費(市民管弦楽団運営補助事業)	会計	01	一般会計
		款	02	総務費
		項	01	総務管理費
		目	07	文化振興費
基本 施策	35 文化・芸術により、豊かな感性と創造性を育む	細目	128	文化振興経費
		細々目	01	文化振興一般経費
行革大綱の重点事項番号				
担当部課名	コード	40100		22 - 9621 (内線) 4117
	名称	企画財政部企画課		
担当者氏名	西村 澄子		連絡先	

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	市民管弦楽団	※対象件数	1
成果(どうする)	音楽を実践する場等、音楽に親しむ機会が増え、音楽文化の振興を図ることができる。		
根拠法令・要綱等	企画財政部関係補助金等交付要綱(市民管弦楽団運営補助金)		
開始年度	平成 15 年度	関連事業	
終了年度	平成 年度		
H23 事業 内容	市民の音楽文化の振興を目的に、市民管弦楽団の育成を図るため、伊賀コミュニティオーケストラがその窓口となって活動運営を行っている。 (助成団体実績) 演奏会活動(年3回) 年間を通じて、月2~4回の練習の実施 弦楽器・管楽器(特にヴィオラ・ファゴット)の団員募集を実施、若い新入団員を複数迎え、団員の充実を図った。 新しい楽譜と、電子ピアノを購入した。		
社会情勢の 変化等			

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体 (委託先)	[]
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H22	H23	H24	H25
演奏会開催回数	回	回	目標	2	目標	3
			実績	3	実績	3
練習回数	回	回	目標	35	目標	35
			実績	30	実績	30

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H22	H23	H24	H25
演奏会入場者数		より多くの人に関心を持つことにより音楽文化が向上する	人	目標	650	目標	650
				実績	557	実績	567

投入コスト	H22 決算		H23 決算		H24 当初予算		H25 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計(A)	60	300			300		300	
Aの 財源 内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源	60	300		300		300	
事業投入人件費(B)	0.1人	720	0.1人	720	0.1人	720	0.1人	720
フルコスト(A)+(B)		780		1,020		1,020		1,020

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
【必1】法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業		より多くの人に音楽文化について関心を持ってもらい、質の高いオーケストラ演奏に触れる機会の提供を与えられる。
【必2】個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業		
【必3】特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	○	
【必4】市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業		
【必5】市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業		
【必6】市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業		
【必7】民間のサービスだけでは地域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業		
【必8】受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業		
【必9】市の個性、特色、魅力を継承・発展・創造し、あるいは国内外へ情報発信することを目的とした事業		
【必10】事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業		
【必11】国や県、民間が同様のサービスを提供している事業		
【必12】【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
【必13】財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
【必13】【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
【有1】事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。		演奏会を行うことにより、オーケストラ演奏について関心を持ってもらえる。
【有2】基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。	○	
【有3】サービス水準や対象を見直す余地がある。		
【達1】当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】		
【達2】予算の繰越の有無 無		
【達2】【予算の繰越がある場合、繰越の種別】		
【効1】他の事業主体の活用、事業移管が可能である。		
【効2】基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。【事業名】		
【効3】受益者負担を求めることができる事業である。		
【効4】全体コストにおける負担構成は適正である。		
【効5】コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。		

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	市民管弦楽団へ平成25年度以降の購入計画を検討してもらう。
昨年度の 取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 基金残高を考慮しつつ、楽器・楽譜等の購入計画を立てた。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	藤山 善之
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 市民管弦楽団への寄附金により助成されている事業であり、基金残高により年次的に備品を購入し、事業を推進する。
現時点における 課題、その他	寄附金の残高が約1,560千円となっている。楽器・備品購入は内容を検討し計画的に実施する。
課題、その他に 対する改善策 (いつまでに、 何を、どうする)	市民管弦楽団へ平成26年度以降の購入計画を検討してもらう。

コード	名称	区分	コード	名称
95	美術展覧会運営経費(市民美術展覧会)	会計	01	一般会計
		款	02	総務費
		項	01	総務管理費
		目	07	文化振興費
35	文化・芸術により、豊かな感性と創造性を育む	細目	128	文化振興経費
		細々目	51	美術展覧会運営経費
行革大綱の重点事項番号				
担当部課名	コード	40100		担当者氏名
	名称	企画財政部企画課		
		連絡先	22 - 9621 (内線) 4117	

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	絵画・写真・書道・彫塑工芸各部門(造形芸術)活動に取り組む人	※対象件数
成果(どうする)	市民の美術への関心を高め、作品を発表する場を提供することにより、芸術文化の創造に積極的に取り組む姿勢を養う。	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成 17 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H23 事業内容	造形芸術等の有識者により運営委員会を組織し、年度内に2回運営委員会を開催、事業計画等を審議 絵画・彫塑工芸・写真・書道の各部門の作品を募集 ポスターを作製し、自治会掲示板、市内文化祭等へ掲示 運営委員から推薦された審査委員による公開審査を実施 入賞・入選した作品、審査員・運営委員の作品、無鑑査の作品を展示 入賞者を対象に表彰式を開催	
社会情勢の変化等	平成20年度から彫塑と工芸部門を統合。 審査員は平成19年度までは15名だったが、平成20年度より13名に委嘱、さらに審査員謝礼を報酬に変更した。 平成24年度より上野ふれあいプラザが使用できないため、ハイトピア伊賀を新会場として開催予定。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

運営主体	
1 (委託先)	[]
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H22	H23	H24	H25
運営委員会	回	目標	3	2	3	2
		実績	3	2		
審査会	回	目標	1	1	1	1
		実績	1	1		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H22	H23	H24	H25
出品者数	造形芸術活動に取り組む人を増やす	人	目標	180	180	180	180
			実績	164	167		
来場者数	優れた作品を鑑賞する機会を提供し、造形芸術の向上を図る	人	目標	2,250	2,250	2,250	2,250
			実績	1,840	1,840		

投入コスト	直接事業費計(A)	H22 決算	H23 決算	H24 当初予算	H25 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
		965	863	1,350	1,071
Aの財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他				
	一般財源	965	863	1,350	1,071
	事業投入人件費(B)	0.3人	2,160	0.3人	2,160
	フルコスト(A)+(B)	3,125	3,023	3,510	3,231

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	【必1】法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業 【必2】個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業 【必3】特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業 【必4】市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業 【必5】市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業 【必6】市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業 【必7】民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業 【必8】受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業 【必9】市の個性、特色、魅力を継承・発展・創造し、あるいは国内外へ情報発信することを目的とした事業 【必10】事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業 【必11】国や県、民間が同様のサービスを提供している事業 【必12】事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業 【必13】【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】 財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業 【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	市民の創作活動の発表の場を創り、優れた作品を鑑賞する機会を提供するとともに人材育成につながる事業であることから、市民文化の向上が期待できる。
有効性	【有1】事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 【有2】基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。 【有3】サービス水準や対象を見直す余地がある。	造詣芸術分野において、市民の創作意欲が高まり活動内容が一層向上するとともに、造形芸術への関心が高まる。
達成度	【達1】当初設定した計画を 80%以上100%未満 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】 【達2】予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	市展への関心を高めるため各文化団体・市内高校へ出品依頼をする。ポスター、ケーブルTV、広報等あらゆる方法でPRする。
効率性	【効1】他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 【効2】基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 【効3】受益者負担を求めることができる事業である。 【効4】全体コストにおける負担構成は適正である。 【効5】コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	23年度からは高校への出品依頼文書は美術部顧問・書道部顧問へも通知する。さらに書道部門では「臨書作品も受け付ける」との一文をいれ、若い世代の出品意欲を高める。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 高校美術部からまとまった出品があるなど一定の効果は得た。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	藤山 善之
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 市民の造形芸術の創作意欲を高め、市民文化の向上に寄与する事業として継続する。
現時点における課題、その他	平成24年度は会場を変更するため、作品展示など運営に見直しが必要。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	パネル設営費等、展示に係る費用を抑える。 展示方法を工夫し、魅力的な会場作りをすることにより出品・来場者数の増加を促す。

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	96 文化祭開催経費	会計	01	一般会計
		款	02	総務費
		項	01	総務管理費
		目	07	文化振興費
基本 施策	35 文化・芸術により、豊かな感性と創造性を育む	細目	128	文化振興経費
		細々目	52	文化祭開催経費
行革大綱の重点事項番号				
担当部課名	コード	40100		担当者氏名
	名称	企画財政部企画課		
			連絡先	22 - 9621 (内線) 4117

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	芸術文化活動に取り組む人及び団体		※対象件数
成果(どうする)	活動の成果を発表する場が提供され、参加者(団体)相互の文化意識を高め、それぞれの活動内容がより充実する。		
根拠法令・要綱等			
開始年度	平成 16 年度	関連事業	
終了年度	平成 年度		
H23 事業 内容	2011伊賀市民文化祭実行委員会に事業を委託。 市内の文化団体代表者らで実行委員会を組織し、事業計画・運営を行った。 舞台部門の公演日を2日間に集約するなど、運営方法を従来から大きく見直した。 市広報、行政チャンネルで市内全域から参加者を募集。 文化活動の発表として、舞台公演および作品展示を行った。		
社会情勢の 変化等	これまで上野ふれあいプラザで展示部門を開催してきたが、平成24年度はハイピア伊賀で開催予定。		

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体 (委託先)	[]
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H22	H23	H24	H25
開催延日数		日	目標	10	目標	9
			実績	13	実績	9
実行委員会数		回	目標	3	目標	3
			実績	3	実績	3

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H22	H23	H24	H25
参加団体数		発表の場を設けることで活動内容が一層向上する。	団体	目標	100	目標	100
				実績	89	実績	73
入場者数		芸術文化作品を鑑賞することにより文化意識の向上につながる	人	目標	5,200	目標	5,200
				実績	4,831	実績	5,531

投入コスト	Aの財源内訳	H22 決算	H23 決算	H24 当初予算	H25 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
直接事業費計 (A)		1,972	1,500	1,500	1,500
Aの財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他				
一般財源		1,972	1,500	1,500	1,500
事業投入人件費 (B)		0.2人 1,440	0.2人 1,440	0.2人 1,440	0.2人 1,440
フルコスト (A)+(B)		3,412	2,940	2,940	2,940

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
【必1】法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業		芸術文化活動に関心を持ち、活動をする人が増加することにより、市民が心豊かに生活し、活気と個性あふれる社会が形成される。日ごろの芸術文化活動の発表の場を作る。
【必2】個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業		
【必3】特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	○	
【必4】市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業		
【必5】市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業		
【必6】市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業		
【必7】民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業		
【必8】受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業		
【必9】市の個性、特色、魅力を継承・発展・創造し、あるいは国内外へ情報発信することを目的とした事業		
【必10】事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業		
【必11】国や県、民間が同様のサービスを提供している事業		
【必12】事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【必13】【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
【有1】事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。		活動の成果を発表する場を設けることにより、活動内容がより一層向上する。また、芸術文化作品を鑑賞することにより文化意識も向上する。
【有2】基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。	○	
【有3】サービス水準や対象を見直す余地がある。		
達成度	【達1】当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
	【達2】予算の繰越の有無 無	
	【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効率性	【効1】他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	【効2】基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。【事業名】	
	【効3】受益者負担を求めることができる事業である。	○
	【効4】全体コストにおける負担構成は適正である。	○
	【効5】コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	平成23年度は、舞台部門の洋楽・洋舞・ライトミュージックを除いた部門の開催日を2日間に集約。日程をタイトにして集客増を見込む。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 22年度まで部門ごとに開催会場と日程が分かれていたが、各団体の出演時間を短くするなどして、総合フェスティバルとして開催できた。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	藤山 善之
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 日頃、芸術文化活動に取り組む団体の発表および交流の場として必要である。また、交流することでお互いの文化意識の向上が期待できる。
現時点における課題、その他	平成23年度の総合フェスティバルの運営方法に改善すべき点がある。 展示部門の会場が変更になるが、従来分の展示スペースを確保する必要がある。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	平成24年度も総合フェスティバル方式を継続し、部門ごとの出演順を工夫するなど各団体の持ち時間を増やす。 展示部門は前期・後期と開催日程を2回にわけ、作品鑑賞しやすい会場作りをする。

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	97 先賢顕彰事業	会計	01	一般会計
		款	02	総務費
		項	01	総務管理費
		目	07	文化振興費
基本 施策	35 文化・芸術により、豊かな感性と創造性を育む	細目	128	文化振興経費
		細々目	54	先賢顕彰費
行革大綱の重点事項番号				
担当部課名	コード	550100		担当者氏名
	名称	伊賀支所振興課		
			連絡先	45 - 9111 (内線) 231

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	文豪横光利一野村区顕彰会、横光利一「雪解のつどい」参加者、橋本策医学博士顕彰会 ※対象件数
成果(どうする)	郷土の偉人の顕彰を行うことにより、地域の振興と、その生き方を学び郷土を愛し郷土に誇りを持つことを次世代につなげる。
根拠法令・要綱等	伊賀市総合計画、支所関係補助金等交付要綱
開始年度	平成 年度
終了年度	平成 年度
H23 事業 内容	文豪横光利一野村区顕彰会に野村区に在する横光公園の維持管理を委託。年間7回、会員延べ73人により園内の草刈及びトイレ掃除、松の手入れを実施。「雪解のつどい」を開催。120名が参加。横光の作品「春は馬車に乗って」の朗読や大学名誉教授の作品概論・解説により、作者・作品への想いをより深めた。また、「春は馬車に乗って」のイメージ絵巻(約10m)や横光利一書簡(伊山文庫蔵)を会場に展示。橋本策医学博士顕彰会へ補助し、式典(法要)及び石像周辺の清掃を行った。
	社会情勢の変化等

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体(委託先)	[]
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H22	H23	H24	H25
横光利一の顕彰事業	目標	回	1	1	1	1
	実績		1	1		
橋本策の顕彰事業	目標	回	1	1	1	1
	実績		1	1		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H22	H23	H24	H25
横光利一顕彰事業参加者数	事業の参加者数により地域振興が図られているかどうか		人	目標	85	目標	95
				実績	105	実績	120
橋本策顕彰事業参加者数	事業の参加者数により地域振興が図られているかどうか		人	目標	38	目標	38
				実績	38	実績	24

投入コスト	H22 決算		H23 決算		H24 当初予算		H25 当初要求	
	(千円)		(千円)		(千円)		(千円)	
直接事業費計(A)	230		325		240		240	
Aの財源内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他							
一般財源	230		325		240		240	
事業投入人件費(B)	0.01人	72	0.01人	72	0.01人	72	0.01人	72
フルコスト(A)+(B)	302		397		312		312	

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	【必1】法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業 【必2】個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業 【必3】特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業 【必4】市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業 【必5】市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業 【必6】市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業 【必7】民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業 【必8】受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業 【必9】市の個性、特色、魅力を継承・発展・創造し、あるいは国内外へ情報発信することを目的とした事業 【必10】事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業 【必11】国や県、民間が同様のサービスを提供している事業 【必12】事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業 【必13】【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】 財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業 【必13】【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	医学界では世界的に著名なハンモト病の発見者橋本策医学博士を、また、伊賀市が「こころの故郷」である文豪横光利一を顕彰することにより、地域の振興を図り、郷土を愛し、郷土に誇りをもつことを次世代につなげる。市の魅力を発信するため伊賀市として支援する必要がある。
有効性	【有1】事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 【有2】基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。 【有3】サービス水準や対象を見直す余地がある。	○
達成度	【達1】当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】 【達2】予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効率性	【効1】他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 【効2】基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 【効3】受益者負担を求めることができる事業である。 【効4】全体コストにおける負担構成は適正である。 【効5】コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	○

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	平成25年ぐらいを目処に、まちづくり協議会で事務局をお願いしたい。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいない 【詳細】 実行委員会の役割が充実している。まちづくり協議会から数名実行委員になっているが、事務局をお願いする方向へは進んでいない。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	橋本 忠大
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 郷土の偉人の顕彰を行うことにより、地域の振興とその生き方を学び郷土に誇りを持つことを次世代につなげるため現状維持したい。
現時点における課題、その他	伊賀支所で事務局を担当している。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	平成25年ぐらいを目処に、まちづくり協議会(実行委員会)で事務局をお願いしたい。

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	100-3 都市間交流推進事業(カシオペアの会)	会計	01	一般会計
		款	02	総務費
		項	01	総務管理費
		目	07	文化振興費
基本 施策	35 文化・芸術により、豊かな感性と創造性を育む	細目	130	都市間交流推進事業
		細々目	51	都市間交流推進事業
行革大綱の重点事項番号				
担当部課名	コード	40100	担当者氏名	久保 敦美
	名称	企画財政部企画課		
			連絡先	22 - 9621 (内線) 4115

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	カシオペアの会を構成している都市及び住民	※対象件数
成果(どうする)	他地域との交流につながり、相互の情報交換ができる。	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成 7 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H23 事業 内容	幹事会及び小委員会の開催	
社会情勢の 変化等	津市が市町村合併に伴い脱会し、現在は、伊賀市、亀山市、甲賀市、かめやま美術館で構成している。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体 (委託先)	[]
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動 指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H22	H23	H24	H25
	幹事会開催回数	回	目標 5	目標 6		
			実績 8	実績 5		
	広域的共催事業実施回数	回	目標 1	目標 1		
			実績 1	実績 1		

成果 指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H22	H23	H24	H25
	体験学習参加者数(伊賀市民)	構成地域参加者との交流を深め相互の情報交換ができる。	人	目標 -	目標		
				実績 5	実績		
	啓発物品配付部数	啓発物品配付により、市民レベルでの都市間交流意識を高める。	部	目標 500	目標		
				実績 1500	実績		

投入 コスト	H22 決算		H23 決算		H24 当初予算		H25 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
直接事業費計 (A)	223	0			0			0
A の 財 源 内 訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他							
一般財源	223	0			0		0	
事業投入人件費 (B)	0.3人	2,160	0.2人	1,440	0.2人	1,440	0.2人	1,440
フルコスト (A)+(B)		2,383		1,440		1,440		1,440

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
【必1】法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業		道や鉄道でつながる3市(伊賀市、亀山市、甲賀市)及びかめやま美術館で構成する県域を越えた広域都市間交流組織である。広域による事業を実施し、市民レベルでの都市間交流を推進するとともに、行政レベルでの情報交換を行っている。
【必2】個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業		
【必3】特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	○	
【必4】市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業		
【必5】市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業		
【必6】市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業		
【必7】民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業		
【必8】受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業		
【必9】市の個性、特色、魅力を継承・発展・創造し、あるいは国内外へ情報発信することを目的とした事業		
【必10】事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業		
【必11】国や県、民間が同様のサービスを提供している事業		
【必12】事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【必13】【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
【有1】事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。		○
【有2】基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。		
【有3】サービス水準や対象を見直す余地がある。		
達成度	【達1】当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
	【達2】予算の繰越の有無 無	
	【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効率性	【効1】他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	○
	【効2】基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。【事業名】	
	【効3】受益者負担を求めることができる事業である。	
	【効4】全体コストにおける負担構成は適正である。	
	【効5】コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	○

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	平成23年度中に本会のあり方を整理し、平成24年度には本会から行政が退くとともに、新たな3市(亀山市、甲賀市、伊賀市)広域連携協議の場の設置に向けた検討を行う。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいない 【詳細】 本会の事業展開のあり方、組織のあり方等について関係会議で協議を行い、平成23年度に本会の本格的なあり方検討を行ない、現在の形での3市連携は凍結となる。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	藤山 善之
事業の方向性	【方向性】 終期設定 【理由】 市民レベルの都市間交流がよりすすんでいる中で、行政による本会での交流はその役割を概ね果たせたものと考え、本会機能を継続させるのであれば民間レベルでの交流団体へ移行させていく。
現時点における課題、その他	平成22年度に、加盟する亀山市、甲賀市、伊賀市の3市による「広報紙」連携事業が立ち上がったことから、3市広域連携をすすめるについては、将来的な政策研究等を行う組織へと移行させていく必要があるため、現在の形での3市連携は凍結となる。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	平成24年度には本会から行政が退くとともに、新たな3市(亀山市、甲賀市、伊賀市)広域連携協議の場の設置に向けた検討を行い、広域での政策調整、研究団体となるよう協議を行う。

事業名	コード	名称	区分	コード	名称	
事業名	102	俳句のくにづくり拠点施設建設事業(仮称 芭蕉翁記念館)	会計	01	一般会計	
			款	02	総務費	
			項	01	総務管理費	
			目	08	芭蕉顕彰費	
基本施策	35	文化・芸術により、豊かな感性と創造性を育む	細目	132	俳句のくにづくり拠点施設建設事業	
			細々目	51	俳句のくにづくり拠点施設建設事業	
行革大綱の重点事項番号						
担当部課名	コード	40100	担当者氏名	久保 敦美	連絡先	22 - 9621
	名称	企画財政部企画課				(内線) 4115

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	芭蕉翁を顕彰する人、俳句愛好家、伊賀市を訪れる観光客 生涯学習活動、文化活動を行う人	※対象件数
成果(どうする)	芭蕉翁の俳諧資料などを収集・保存・展示し、調査研究・情報提供を行うことができる。 生涯学習、社会教育、観光施設としても活用できる。 伊賀市を訪れる観光客が増える。	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成 19 年度	関連事業
終了年度	平成 27 年度	
H23 事業内容	関係機関と、(仮称)芭蕉翁記念館の建設に向けた協議及び調整を行い、22年より引き続き、新記念館の展示計画、施設計画、管理運営計画等をまとめた「事業計画」策定に向け、「展示活動計画等素案」をまとめた。	
社会情勢の変化等		

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体(委託先)	[]
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H22	H23	H24	H25
			目標	目標		
			実績	実績		
			目標	目標		
			実績	実績		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H22	H23	H24	H25
進捗率			%	目標	0.2	目標	2.4
				実績	0.2	実績	2.4
				目標		目標	
				実績		実績	

投入コスト	直接事業費計(A)	H22 決算	H23 決算	H24 当初予算	H25 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
Aの財源内訳	国庫支出金	3,060	214	248	48,375
	県支出金				
	地方債				
	その他				
	一般財源	3,060	214	248	48,375
	事業投入人件費(B)	0.3人 2,160	0.3人 2,160	0.3人 2,160	0.3人 2,160
	フルコスト(A)+(B)	5,220	2,374	2,408	50,535

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	【必1】法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業 【必2】個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業 【必3】特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業 【必4】市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業 【必5】市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業 【必6】市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業 【必7】民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業 【必8】受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業 【必9】市の個性、特色、魅力を継承・発展・創造し、あるいは国内外へ情報発信することを目的とした事業 【必10】事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業 【必11】国や県、民間が同様のサービスを提供している事業 【必12】事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業 【必13】【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】 財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業 【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	現芭蕉翁記念館は、昭和34年に建設されたものであるが、施設の老朽化がすすみ、また展示スペースも手狭であることから、新しいニーズに対応した施設の建設が必要となっている。 市総合計画において、「松尾芭蕉を核とした地域づくりの推進」のための拠点施設整備を位置づけており、市の三大プロジェクトのひとつでもある。
有効性	【有1】事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 【有2】基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。 【有3】サービス水準や対象を見直す余地がある。	○ ○
達成度	【達1】当初設定した計画を 60%未満 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】 【達2】予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	建設予定地である旧桃青中学校跡地と上野公園を結ぶ連絡橋の設置について、関係機関との協議を完了し結論を得る。
効率性	【効1】他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 【効2】基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 【効3】受益者負担を求めることができる事業である。 【効4】全体コストにおける負担構成は適正である。 【効5】コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	平成23年度中に、(仮称)芭蕉翁記念館建設予定地と上野公園を結ぶ連絡橋の設置の必要性をまとめ、市教委、県教委及び文化庁等関係機関と協議を行う。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいない 【詳細】 連絡橋の設置について、関係機関と協議を続けた。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	藤山 善之
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 市総合計画、市グランドデザインで位置づけられた新芭蕉翁記念館整備について、(仮称)新芭蕉翁記念館基本構想、(仮称)芭蕉翁記念館基本計画に基づき、平成26年度整備に向け事業を推進していく。
現時点における課題、その他	次の段階として事業計画の策定が必要であるが、来場者の動線を確保するための連絡橋の設置に係る課題解決が前提条件である。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	平成24年中に、連絡橋設置に係る結論を得て事業計画策定に向けた条件を整える。

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	103 芭蕉祭執行等経費	会計	01	一般会計
		款	02	総務費
		項	01	総務管理費
		目	08	芭蕉顕彰費
基本 施策	35 文化・芸術により、豊かな感性と創造性を育む	細目	133	芭蕉翁顕彰経費
		細々目	51	芭蕉祭執行等経費
行革大綱の重点事項番号				
担当部課名	コード	40100		担当者氏名
	名称	企画財政部企画課		
		連絡先	福島 礼子 22 - 9621 (内線)	

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	芭蕉翁を顕彰する人、園児、小学生、中学生、高校生(主に市内の学校、園) ※対象件数		
成果(どうする)	世代に関わらず松尾芭蕉を顕彰することができる。俳句の普及とともに伊賀市をPRできる		
根拠法令・要綱等	俳文学関係著作に係る文部科学大臣賞授賞に関する要綱(文部科学大臣賞の授賞のみ関係)		
開始年度	平成	年度	関連事業
終了年度	平成	年度	
H23 事業 内容	(財)芭蕉翁顕彰会に事業を委託し、市との共催で10月12日に事業を実施。 芭蕉祭記念講演会～歌枕俳枕講座～(10月11日)、月見の献立(10月11日)、墓前法要(愛染院)、芭蕉祭式典(上野公園俳聖殿前広場)、芭蕉祭協賛行事(市内各地)、芭蕉祭行事(全国俳句大会、芭蕉祭ポスターパネル、原画展ほか)、義仲寺展墓、芭蕉さんを偲ぶ会(市内各小学校)		
社会情勢の 変化等			

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体(委託先)	[]
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H22	H23	H24	H25
	芭蕉祭ポスター掲示部数	部	目標	370	目標	370
			実績	370	実績	370
	芭蕉祭市民バンド練習回数	回	目標	10	目標	9
			実績	9	実績	9

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H22	H23	H24	H25
	芭蕉翁献詠俳句投句数	投句数の増が俳句の浸透を表す指標となる	句	目標	45,000	目標	45,000
				実績	42,662	実績	40,111
	芭蕉翁献詠俳句投句数(一般)	投句数の増が俳句の浸透を表す指標となる	句	目標	15,000	目標	11,000
				実績	9,910	実績	9,978

投入コスト	Aの財源内訳	H22 決算	H23 決算	H24 当初予算	H25 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
直接事業費計(A)		9,076	9,128	9,590	9,590
	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他				
一般財源		9,076	9,128	9,590	9,590
事業投入人件費(B)		0.6人 4,320	0.6人 4,320	0.6人 4,320	0.6人 4,320
フルコスト(A)+(B)		13,396	13,448	13,910	13,910

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	【必1】法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業 【必2】個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業 【必3】特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業 【必4】市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業 【必5】市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業 【必6】市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業 【必7】民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業 【必8】受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業 【必9】市の個性、特色、魅力を継承・発展・創造し、あるいは国内外へ情報発信することを目的とした事業 【必10】事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業 【必11】国や県、民間が同様のサービスを提供している事業 【必12】事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業 【必13】【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】 財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業 【必13】【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	芭蕉顕彰事業を通して芭蕉が育んだ文化を後世に伝承することは、松尾芭蕉の生誕地として、今後の伊賀市文化の発展にも関ることである。また、伊賀市を国内外へ発信することができる。
有効性	【有1】事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 【有2】基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。 【有3】サービス水準や対象を見直す余地がある。	芭蕉顕彰に寄与する事業である。
達成度	【達1】当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】 【達2】予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効率性	【効1】他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 【効2】基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 【効3】受益者負担を求めることができる事業である。 【効4】全体コストにおける負担構成は適正である。 【効5】コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	松尾芭蕉顕彰事業として類似事業があるが、それぞれ地域住民が取り組む事業として定着していることから事業統合は難しい。また、現在の事業規模・内容では、これ以上の予算減額は難しい。

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	24年度以降は芭蕉祭における会場設営業務に関しても財団に委託できるように協議する。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいない 【詳細】 昨年度、話し合いの中で、24年度からは芭蕉翁顕彰会へ実施する方向で進めていたが、芭蕉翁顕彰会の人員削減に伴い、芭蕉祭当日及びそれまでの打合せ等準備に対応できないため、今後も市で委託をすることとなった。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	藤山 善之
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 文化伝承の視点から事業を継続する必要がある。
現時点における課題、その他	芭蕉祭運営業務を財団法人芭蕉翁顕彰会へ業務委託しているものの、共同開催として事業を実施していることから、事業の見直しには同財団との協議が必要である。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	あらゆる年代の方々に俳句に対して関心を持ってもらい投句数を増やすための方法を考える。平成27年度までに、芭蕉祭委託料の中で支出が多額となっている俳句選者の人数及び謝礼額について協議を行い、少しでも委託料を減らせないか検討する。

事業名	コード	名称	区分	コード	名称
104		しぐれ忌執行等経費	会計	01	一般会計
			款	02	総務費
			項	01	総務管理費
			目	08	芭蕉顕彰費
			細目	133	芭蕉翁顕彰経費
			細々目	52	しぐれ忌執行経費
基本 施策	35	文化・芸術により、豊かな感性と創造性を育む			
行革大綱の重点事項番号					
担当部課名	コード	40100	担当者氏名	西村 澄子	連絡先 22 - 9621 (内線) 4117
	名称	企画財政部企画課			

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	芭蕉翁を顕彰する人	※対象件数
成果(どうする)	芭蕉翁を慕うものが集まり、芭蕉翁を顕彰することができる。	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成 19 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H23 事業 内容	(財)芭蕉翁顕彰会に式典を委託する。 ◎式典内容 合唱「芭蕉讃歌」、顕彰の言葉、法要と墓参、献花、講演会「柘植の芭蕉さん」(伊賀市文化財保護審議会会長中川甫)	
社会情勢の 変化等		

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体(委託先)	[]
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H22	H23	H24	H25
しぐれ忌開催にかかる打合せ会	回	目標	3	3	3	3
		実績	3	2		
		目標				
		実績				

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値		
				H22	H23	H24	H25	
参加者数		より多くの人に参加することにより、芭蕉翁を顕彰することができる	人	目標	135	135	150	150
				実績	130	150		
				目標				
				実績				

投入コスト	直接事業費計(A)	H22 決算	H23 決算	H24 当初予算	H25 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
		315	300	300	300
Aの財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他				
	一般財源	315	300	300	300
	事業投入人件費(B)	0.2人 1,440	0.2人 1,440	0.2人 1,440	0.2人 1,440
	フルコスト(A)+(B)	1,755	1,740	1,740	1,740

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	【必1】法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業 【必2】個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業 【必3】特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業 【必4】市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業 【必5】市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業 【必6】市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業 【必7】民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業 【必8】受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業 【必9】市の個性、特色、魅力を継承・発展・創造し、あるいは国内外へ情報発信することを目的とした事業 【必10】事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業 【必11】国や県、民間が同様のサービスを提供している事業 【必12】事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業 【必13】【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】 財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業 【必13】【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	松尾芭蕉の生誕地として、芭蕉翁顕彰事業を通して、先人が行ってきた芭蕉翁顕彰を受け継ぎ、後世に継承していくことは、芭蕉翁を核としたまちづくりを推進する伊賀市にとって必要である。
有効性	【有1】事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 【有2】基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。 【有3】サービス水準や対象を見直す余地がある。	市民が参画する式典として、芭蕉翁顕彰に寄与することができる。
達成度	【達1】当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】 【達2】予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効率性	【効1】他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 【効2】基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】芭蕉祭 【効3】受益者負担を求めることができる事業である。 【効4】全体コストにおける負担構成は適正である。 【効5】コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	芭蕉翁顕彰事業として、10月に行われる芭蕉祭から11月の本事業間を芭蕉月間として位置づける中で、本事業は地域が主となり行っている事業であり、事業規模や内容からこれ以上のコスト削減は難しい。

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	今後、市と関係機関との間で顕彰内容等について検討する。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいない 【詳細】 事業内容を具体的に検討する場を持たなかった。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	藤山 善之
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 芭蕉翁生誕の地としての芭蕉翁顕彰の重要な事業のひとつであり、継続した事業展開を行う必要がある。
現時点における課題、その他	地域の取り組みとしての継続した事業展開
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	今後、市と関係機関との間で事業内容等について検討する。

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	106 俳句啓発推進経費	会計	01	一般会計
		款	02	総務費
		項	01	総務管理費
		目	08	芭蕉顕彰費
基本 施策	35 文化・芸術により、豊かな感性と創造性を育む	細目	135	俳句啓発推進経費
		細々目	51	俳句啓発推進経費
行革大綱の重点事項番号				
担当部課名	コード	40100		担当者氏名
	名称	企画財政部企画課		
		連絡先	福島 礼子 22 - 9621 (内線)	

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	芭蕉翁、俳句に興味を持っている市民 ※対象件数		
成果(どうする)	市民が芭蕉翁について関心を深め、また市民の間に俳句をより一層浸透させることにつながる。		
根拠法令・要綱等			
開始年度	平成	年度	関連事業
終了年度	平成	年度	
H23 事業 内容	芭蕉月間事業(歌枕俳枕講座を開催) 芭蕉ゆかり俳句事業(芭蕉翁ならびに俳句に親しむための句会を開催) 芭蕉俳句懸垂幕の掲示(季節ごとに掲示替え) 全国俳句募集事業伊賀市賞		
社会情勢の 変化等			

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体 (委託先)	[]
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H22	H23	H24	H25
	芭蕉ゆかり俳句事業(句会の開催)	回	目標	1	目標	1
			実績	1	実績	1
	歌枕俳枕講座開催回数	回	目標	1	目標	1
			実績	1	実績	1

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H22	H23	H24	H25
	土芳を偲ぶ俳句会参加者数	句会に参加することにより、俳句に関する知識や内容の向上をはかる。	人	目標	—	目標	—
				実績	24	実績	41
	歌枕俳枕講座参加者数	芭蕉や俳句に関する講演会に参加し、より知識を得ることにつながる。	人	目標	80	目標	80
				実績	89	実績	150

投入コスト	H22 決算		H23 決算		H24 当初予算		H25 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計(A)	755	739	768	768				
Aの財源内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他							
一般財源	755	739	768	768				
事業投入人件費(B)	0.3人	2,160	0.3人	2,160	0.3人	2,160	0.3人	
フルコスト(A)+(B)	2,915	2,899	2,928	2,928				

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
【必1】法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業		松尾芭蕉生誕地として市民の芭蕉翁や俳句に関する関心を高めるため、市民の文化活動に資する事業として実施する必要がある。
【必2】個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業		
【必3】特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	○	
【必4】市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業		
【必5】市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業		
【必6】市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業		
【必7】民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業		
【必8】受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業		
【必9】市の個性、特色、魅力を継承・発展・創造し、あるいは国内外へ情報発信することを目的とした事業		
【必10】事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業		
【必11】国や県、民間が同様のサービスを提供している事業		
【必12】事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【必13】【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
【有1】事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。		講演会や俳句教室事業を実施することにより、世代を問わず芭蕉翁や俳句に親しむ機会が提供できる。
【有2】基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。	○	
【有3】サービス水準や対象を見直す余地がある。		
達成度	【達1】当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
	【達2】予算の繰越の有無 無	
	【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効率性	【効1】他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	【効2】基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。【事業名】	
	【効3】受益者負担を求めることができる事業である。	
	【効4】全体コストにおける負担構成は適正である。	
	【効5】コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	23年度から、芭蕉記念館の指定管理者に夏休み俳句教室を開催してもらう。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 8月19日(俳句の日)に開催している夏休み子ども俳句教室を23年度からは、財団法人芭蕉翁顕彰会が開催している。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	藤山 善之
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 市民が松尾芭蕉や俳句に関する関心を高め、親しむ機会が提供できる事業であることから、事務事業を継続する。
現時点における課題、その他	高校生以上の人たちにも芭蕉翁や俳句について関心を持ち、俳句に親しんでもらえるような教室等開催する。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	財団法人芭蕉翁顕彰会と協議をして、28年度までには新しい教室等をができるようにする。

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	107 俳句啓発推進事業	会計	01	一般会計
		款	02	総務費
		項	01	総務管理費
		目	08	芭蕉顕彰費
		細目	135	俳句啓発推進経費
行革大綱の重点事項番号		細々目	51	俳句啓発推進経費
担当部課名	コード 550100 名称 伊賀支所振興課	担当者氏名	吉福 裕香子	連絡先 45 - 9111 (内線) 231

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	俳句を親しむ市民、観光客、「しぐれ忌俳句大会」実行委員会、山出区老人会、芭蕉生誕宅址土地所有者 ※対象件数
成果(どうする)	俳句に親しむ機会を提供することにより、市民等が郷土の歴史や文化の魅力に触れ、郷土に対する理解と愛着を深める。また、俳句を通して芭蕉を愛し、顕彰している地としてのPRができる。
根拠法令・要綱等	伊賀市総合計画
開始年度	平成 年度
終了年度	平成 年度
H23 事業内容	11月12日に47回目となる「しぐれ忌俳句大会」をふるさと会館いがで開催。123名の参加があり、7名の選者により特選句及び入選句が選ばれ、披講・選評により情景美や深さを鑑賞した。また講師を招き講演会を開催。後日、句集を発行。山出区老人会に山出区内に在する芭蕉公園の維持管理を委託。園内・駐車場及び周辺の草刈(年4回)とトイレ掃除(年8回)を延べ100名余りで実施。芭蕉生誕宅址の土地所有者に、宅址碑周辺の維持管理を委託。年間8回草刈を実施。投句箱事業として、管内8箇所に投句箱を設置し、年4回回収し、入選者に選評と記念品を贈った。投句数年間358句、延べ32名が入選。
社会情勢の変化等	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体(委託先)	[]
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H22	H23	H24	H25
			しぐれ忌俳句大会事業	回	目標 1 実績 1	目標 1 実績 1
投句箱事業	回	目標 4 実績 4	目標 4 実績 4	4	4	

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H22	H23	H24	H25
				しぐれ忌俳句大会事業参加者数	事業の参加者数により地域振興が図られているかどうか	人	目標 100 実績 115
投句箱事業投句数	事業の投句数により地域振興が図られているかどうか	句	目標 550 実績 361	目標 400 実績 358	400	400	

投入コスト	H22 決算		H23 決算		H24 当初予算		H25 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
直接事業費計(A)	1,087	905	982	982				
Aの財源内訳								
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他								
一般財源	1,087	905	982	982				
事業投入人件費(B)	0.1人 720	0.1人 720	0.1人 720	0.1人 720				
フルコスト(A)+(B)	1,807	1,625	1,702	1,702				

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	【必1】法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業 【必2】個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業 【必3】特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業 【必4】市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業 【必5】市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業 【必6】市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業 【必7】民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業 【必8】受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業 【必9】市の個性、特色、魅力を継承・発展・創造し、あるいは国内外へ情報発信することを目的とした事業 【必10】事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業 【必11】国や県、民間が同様のサービスを提供している事業 【必12】事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業 【必13】【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】 財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業 【必13】【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	「しぐれ忌俳句大会」は、昭和40年来、長く伝統行事として続いてきたしぐれ忌の一環として行っている事業で、俳句愛好家の発表のよい機会であり、俳句のまち伊賀市の振興に必要な事業である。
有効性	【有1】事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 【有2】基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。 【有3】サービス水準や対象を見直す余地がある。	○
達成度	【達1】当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】 【達2】予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効率性	【効1】他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 【効2】基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。【事業名】 【効3】受益者負担を求めることができる事業である。 【効4】全体コストにおける負担構成は適正である。 【効5】コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	○

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	(財)芭蕉翁顕彰会で事業の方向性について検討が必要と思われる。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 しぐれ忌俳句大会については実行委員会の役割が充実しており、平成24年度からは実行委員会がより主体的に運営していくよう進めている。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	橋本 忠大
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 「しぐれ忌俳句大会」については、萬壽寺にて行われているしぐれ忌に合わせて昭和40年以来地元の俳句を愛する人々により毎年熱心実施され、芭蕉公園等関連施設の維持も熱心に行われている。芭蕉翁の志を大切に受け継いでいる活動に今後も行政として支援していくことが大切である。
現時点における課題、その他	俳聖松尾芭蕉を偲び、10月12日に「芭蕉祭」、11月12日に「しぐれ忌」が開催されている。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	(財)芭蕉翁顕彰会で事業の方向性について検討が必要と思われる。